

令和4年10月13日

保護者 様

糸魚川市立西海小学校
校 長 水澤 哲

学校評価（前期）の結果及び今後の取組について

冷雨の候、皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より、当校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

標記にかかわって、先日開催された学校運営協議会において学校評価の結果についてご審議いただきました。後期に向けた取組等について、資料及び下記のとおり、保護者の皆様へお伝えいたします。

記

1 学校評価の結果及び今後の取組について

結果及び取組の詳細については「1 学期学校評価の結果について」をご参照ください。

取組については、特に、①子どもが学校運営に参画すること、②家庭学習の力を身に付けること、③子どもの人権意識の向上の3つに重点をおきます。下はその一例です。

①うみかわ班による異学年交流、子どもの代表委員会による学校課題「気持ちの良い返事をする」の解決に取り組みます。

②低学年では宿題を忘れずに行うこと、中学年では決めた時間に家庭学習を行うこと、高学年では見通しをもって家庭学習を行い、自分で課題の一部を決められることを成長の目安として家庭学習に取り組みます。

＊その結果、家庭学習時間が学年×10 分以上になることを目指します。

③子どもの権利条約について学習します。どの子も認められ互いに尊重できる学級づくりを心がけます。

2 学校運営協議会

委員さんから、「春と比べてあいさつがよくなってきた」、「あいさつを返してくれる子が増えてきた」と教えていただきました。大変うれしかったです。また、子どもが作ったあいさつ標語 20 編を西海地区自治振興協議会様より「のぼり旗」にさせていただきました。地域の皆様と一緒に、あいさつを交わし合う気持ちの良い学校・地域づくりに取り組みます。

3 その他

この度配付した資料のカラー版を学校のホームページに掲載します。そちらも併せてご覧ください。（右の二次元コードを読み取ってください）



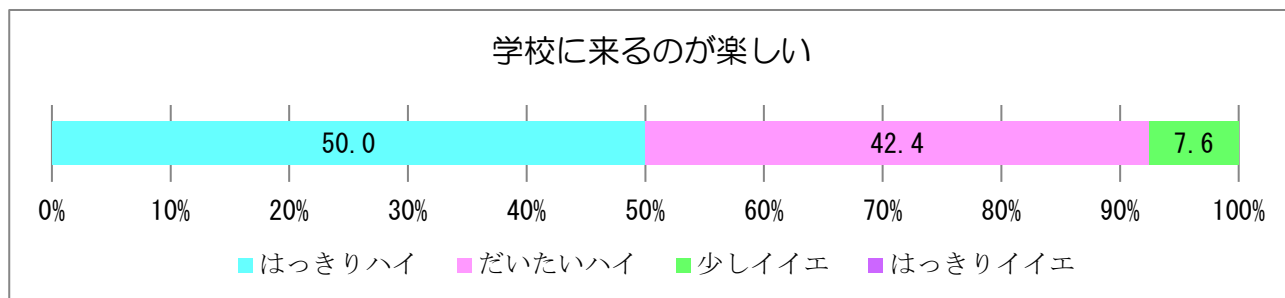
◇令和4年度 Ⅰ学期 学校評価の結果について（7月実施）

1 児童アンケートから

7月に実施した児童アンケート（児童が自分で振り返る学校評価）です。回答のアとイを合わせた（“はっきりハイ”と“だいたいハイ”を足した）数を『肯定的評価』としています。児童評価ではいじめや家庭学習などを中心とした糸魚川市の共通評価項目を中心に掲載しました。なお、グラフの数値は回答した児童の割合（％）です。また、説明の中にある、「昨年比」は昨年度同時期の第1回学校評価との比較です。



質問 「学校に来るのは楽しいですか。」



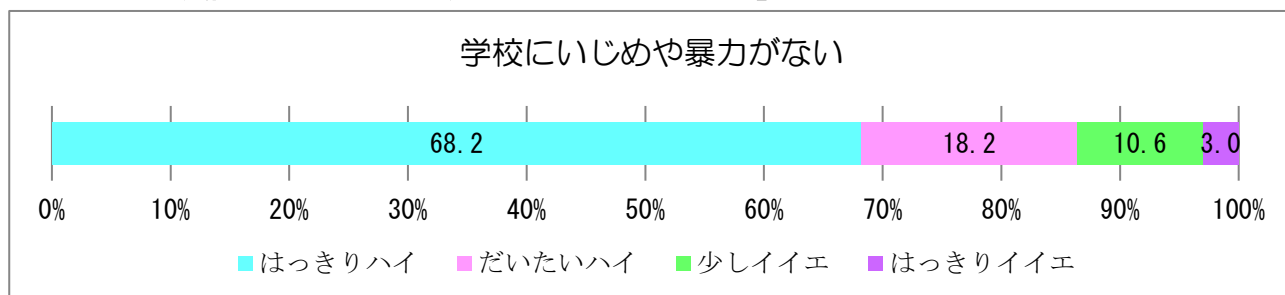
肯定的評価は92.4％（昨年比-3.5％）と、昨年並みの高い数値となっています。昨年同様、概ね良好で安定した人間関係の中で安心して学校生活を送ることができている状況だと考えます。その一方で、あまり楽しくないと答える子どもも7.6％（5名）います。

この項目は児童の「感情」を問う設問ですが、最も重要な設問であると考えます。学習時などで得る達成感、友達との日常生活での関わりから得る楽しさ、教師との信頼関係などが基盤となつての肯定的評価です。学校は子どもたちが安心して楽しく充実した生活を送る場です。子どもに声を掛け、学習面や生活面の環境を整え、継続して支援していきます。

質問 「あなたは、相手のいやがること（たたく、けるなどの暴力もふくめて）をしたり言ったりしませんでしたか。」

質問 「誰かが他の人のいやがることをしたり言ったりしているのを見たことはありませんか。」

上の2つの質問の平均値を「学校にいじめや暴力がない」の値としました。



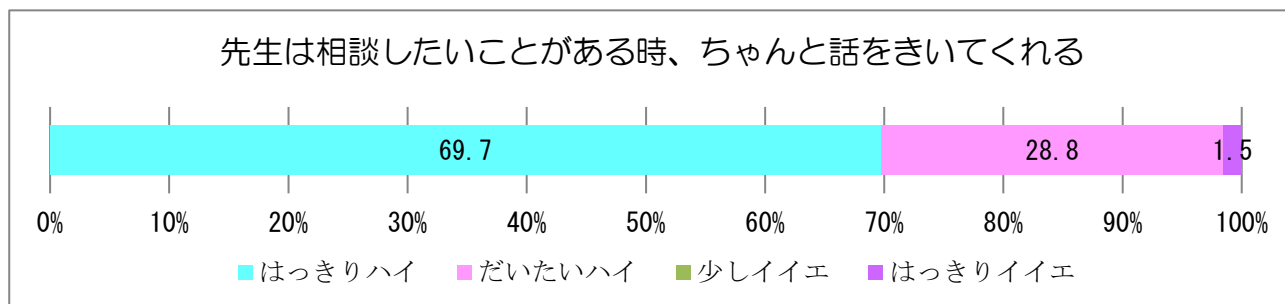
肯定的評価は86.4％（昨年比-6.3％）です。質問それぞれで、「自分がしたか」に「イイエ」が89.2％（逆に「してしまった」児童が10.2％いるということ）、「見たことがあるか」に「イイエ」は83.3％（「見たことがある」児童が16.7％いるということ）でした。

もちろん「してしまった」児童や「見たことがある」児童には即、聞き取りをして、適切に判断、対処いたしました。特に「見たことがある」の項目では、特別な教育的支援を必要とする児童の粗野な言動を「暴力」や「いじめ」と捉えたことが、数値低下の原因と考えられます。このことは、学校として特別支援教育を深めるチャンスと捉え、全校で特別支援教育への理解を深めるための授業を行うなどしました。

また、これとは別に「よくないことを言ってしまった」や「いじわるをしているのを見た」という

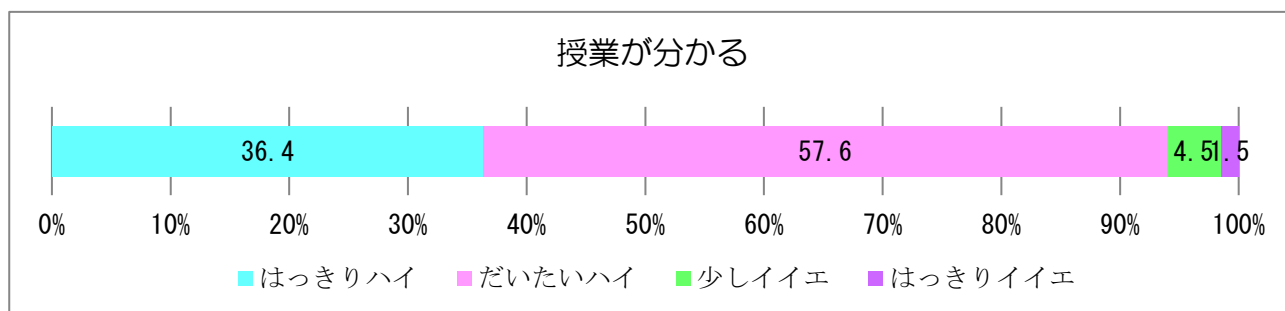
こともあります。学校では、その都度、関係児童への指導及び保護者への連絡を行っています。併せて、未然防止の観点から、話し合い活動（クラス会議など）やあいさつ運動を通して、子どもたちに社会性を身に付けさせたり、「いじめ」に関わる授業を行うなどして、子どもたちの人権意識を高めたりして、子どもたちの「自治の力」（特に“自分たちで自分たちを高めようとする力”）を高めていきます。

質問 「先生は困ったことや相談したいことがあるとき、ちゃんと話を聞いてくれますか。」



肯定的評価 98.5%（昨年比-1.5%）となりました。保護者アンケートの肯定的評価 98.4%（同+2.6%）でした。どの学級も学級担任が子どもに寄り添いながら、良好な人間関係を築くように努めています。この結果におごることなく、今後も子どもたちに寄り添い、その成長を一番に考えた指導・支援を進めていきます。

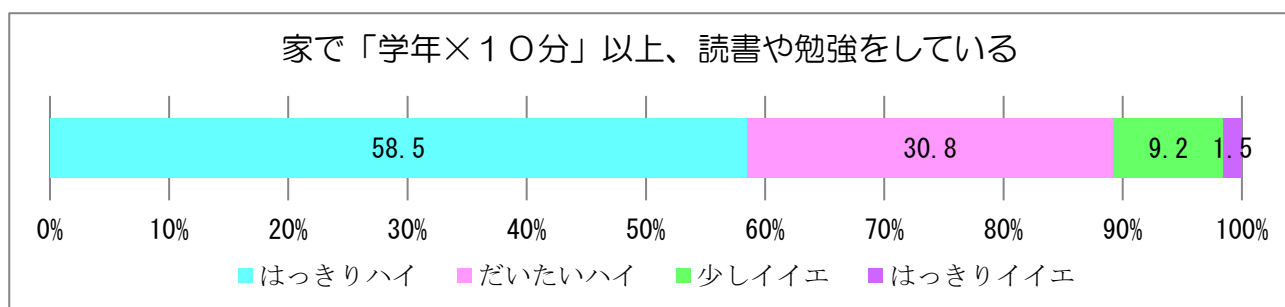
質問 「授業の内容は分かりますか。」



肯定的評価は 94.0%（昨年比-4.5%）で高い割合となりました。子どもに授業内容が分かるように、教師が日々工夫しながら指導をしています。

学校生活の中で大部分を占める授業です。教員の研修会などで”分からないことを 45 分も聞かされる苦痛。それが 6 時間も続いたら…”とよく聞きます。『授業をすること』は教師の本分です。そのことを肝に銘じて、これからも、子どもたちが「分かった！」と言える授業を積み重ねていきます。また、子どもの集中力や計算基礎技能、漢字能力を高めるために、「学力向上」といかわプラン」に引き続き取り組んでいきます。

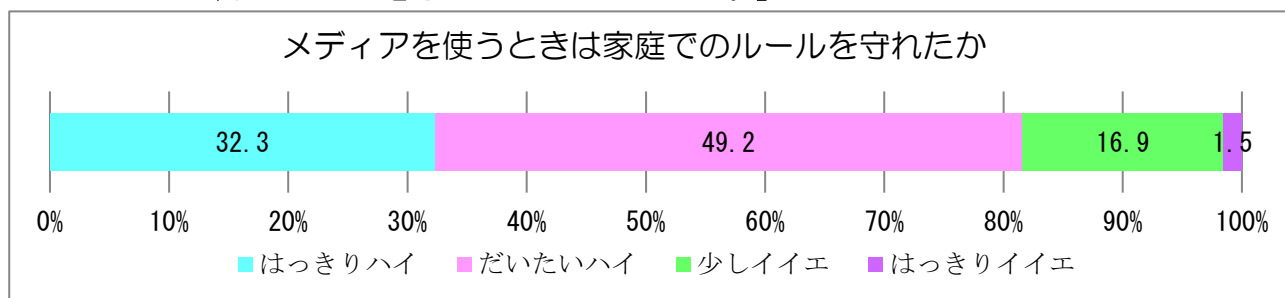
質問 「1日に家で、「10分×学年」以上、読書や勉強ができましたか。」



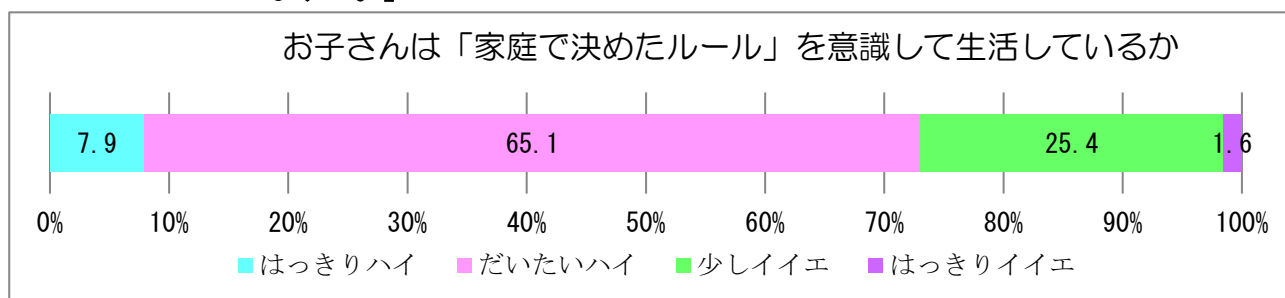
肯定的評価は89.3%（昨年比+4.8%）で昨年同時期よりも良い数値となっています。保護者の皆様のご協力の賜物と思います。感謝申し上げます。しかし、家庭学習の中身を見ると、宿題はやってくが、自主学習がおろそかだったり、10分×学年の時間が確保できていなかったりすることもあるようです。そこで、家庭学習カードを、各学年の実態に合わせるために、全校一斉の様式ではなく、各学年で作成するようにしました。また、「家庭学習強調旬間」を設定し、子どもたちの意識の高揚を図ります。様々な方策を行うことにより、学年に応じた家庭での自主学習の定着を、保護者の皆様と連携しながら目指していきます。

家庭での時間の過ごし方は、学習だけでなく児童の生活全般や健康、SNSなどのメディアとも大きく関わっていることは明らかです。メディアとの関わりについての結果を次に示します。

質問（児童） 「メディア（テレビ、ゲーム、インターネット（SNS など））を使うときは、家庭で決めたルールを守ることができましたか。」



質問（保護者） 「お子さんは、メディアについて、「家庭で決めたルール」を意識して生活していますか。」



児童の肯定的評価は81.5%（昨年比+5.1%）でした。また、保護者の肯定的評価は73.0%（昨年比+20.9%）でした。児童の結果はもちろんですが、保護者の皆様の結果が、明らかに昨年より良くなっています。児童と保護者の差も10%以下になってきました。とても良い傾向です。

しかし、決めたルールを守らない状況が少なからずあるのは好ましいことではありません。結果の向上に甘んずることなく、家庭と学校が足並みをそろえて取組を継続していきましょう。

また、メディアの問題は、当校だけでなく、全市を挙げて取り組んでいる問題です。学校では子どもたちが1人1台のタブレット端末を使えるようになりました。以前のように「メディア機器を持たせない」という対応ではなく、機器を持っていることを前提に、“よりよく生きるため・生活するための使い方”という観点からの教育が必要です。こちらにつきましても、PTAや地域の皆さんと一緒に進めていきたいと思っています。



2 保護者アンケートから

1 学期末の保護者アンケートの結果です。

A：とてもよい B：よい C：あまりよくない D：よくない の
4段階で回答いただきました。AとBを合わせたものを肯定的評価とします。



(1) 肯定的評価が 90%以上の項目

No	評価項目	肯定的評価%
1	お子さんは学校へ行くことを楽しみにしていますか。	98
2	お子さんは授業の内容を理解していると思いますか。	97
3	計算力や漢字の読み書きの力が付いてきたと思いますか。	94
5	お子さんにとって宿題は、適切だと思いますか。	98
6	家庭や地域、または学校で相手のことを考えた優しい言動を、友だちに対してしていますか。	91
11	学年だよりや学校だよりから、子どもたちの活動や学習の様子が分かりますか。	97
12	学校職員は、一人ひとりの子どもを大切に、温かく、ときに厳しく対応していると感じますか。	98
13	学校職員の保護者の皆様への対応について、誠意が感じられますか。	100
14	ボランティアや地域人財の活用等、保護者や地域の人々と連携、協力した教育を進めていると感じられますか。	100

「お子さんは学校へ行くことを楽しみにしていますか」の設問 1 では 98%（昨年比+2% 児童評価 92%）、「お子さんは相手のことを考えた優しい言動を友達に対してしていますか」の設問 6 では 91%（昨年比-2% 児童評価のいじめに関する項目平均値 86%）となりました。児童評価も含めたこれらの結果から、子どもと担任、子ども同士の温かな人間関係が築かれ、学校や教室が子どもたちにとって安心できる場所となっていると考えます。ただ、どちらの項目（いじめの項目を含めて）も 100%ではありません。やはり「全員=100%の児童が、心から=100%、楽しく学校で生活してほしい。」は保護者の皆様の願いであるとともに、私たち教職員の心からの願いです。今後も、100%の児童が、100%楽しんでいる学校を目指していきます。

学習に関する 2、3、5 の設問のそれぞれの肯定的評価は 97%（昨年比+1%）、93%（同 0%）、97%（同 0%）となりました。新型コロナウイルス感染が未だ終息せず…ですが、感染対策をしっかりと行った上で、例えば、校外活動に出かけたり、外部から講師先生を招いたりして、子どもたちと「本物の“人”“物”“事”」を出会わせるように、計画を立てて活動しています。今後も、「子どもたちの成長」と「安全」を中心に置いて、できる範囲で教育活動を展開させていきます。ご理解ご協力のほど、よろしくお願いします。

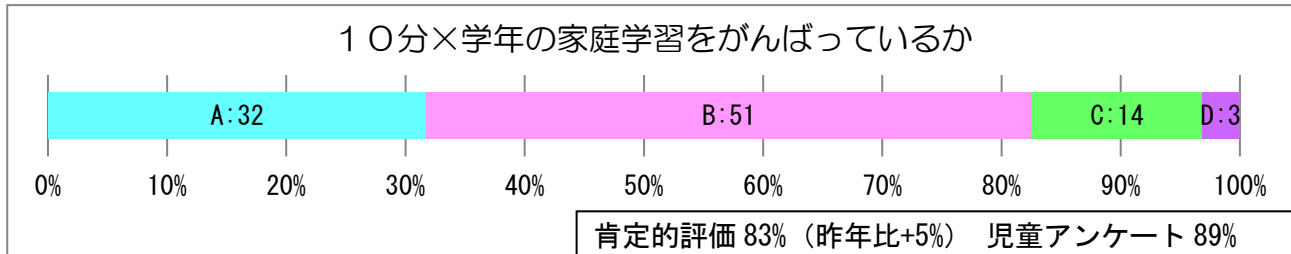
項目 11～14 の学校としての取組についての評価では、昨年度と同様、高い評価となっています。今後も、各種だよりや連絡帳、学校ホームページなどを通して、学校での子どもたちの学習や生活の様子を適宜お伝えすることで、保護者や地域の皆様との連携を深めてまいります。

(2) 肯定的評価が90%未満の項目

A:大変良い B:おおむね良い C:あまり良くない D:全然良くない でご覧ください。

《学力面での課題》

質問 「家庭学習（宿題と自主勉強）の目標を「10分×学年」と決め、学年ごとに取り組んでいます。それに向けてお子さんはがんばっていますか。」



▼昨年度より肯定的評価が上がり、80%を上回りました。児童アンケートでも昨年比でわずかに上がりました。全体としては上向きですが、できていない児童が決まってきているように思います。学習は積み重ねです。「今」、学習することは「後」では出てきません。「後」で出てくるときはより高度な内容になります。「今」のことができているという前提で出てきます。ですから、「今」ほったらかして分からないままにしておくと、「後」のときは分かるわけがありません。だから、「**今身につけるべきことは「今」練習して身につける**」のです。そのための家庭学習です。

また、家庭学習時間についても同様です。6年生は60分の家庭学習時間です。「多い」と思う子もいるかもしれませんが、1年後には中学生。中1の学習時間は90分が目安です（中1は70分と言う人もいますが、中3から逆算すると中1で90分は必要です。中3＝高校入試前は2時間半～3時間です。中1が1時間半、中2が2時間、中3で2時間半～3時間です〔部活等が終わり、入試に向かっていく時期です〕。中学校教員を30年程やった齋藤教頭の談です。）。だから、『家庭学習習慣』を身につける必要があるのです。“6(年)×10分がやれない”で、「中学に入ったらがんばる。」は無理です。机に向かう習慣を「**今**」身につけないと**中学校で苦しみ**ます。同様に5年で50分、4年で40分、…、をがんばれるようにならないと**次の学年で苦しみ**ます。それぞれの学年の目標時間をその学年でしっかりと取り組めるようになりましょう。

学校では、授業の充実を図り、授業から家庭学習へつなげる指導を、子どもの実態に合わせて丁寧に行います。家庭では家庭学習の時間や場の確保などに配慮していただき、適切な学習習慣や生活リズムの定着について、保護者の皆様と連携を図っていきたいと思います。

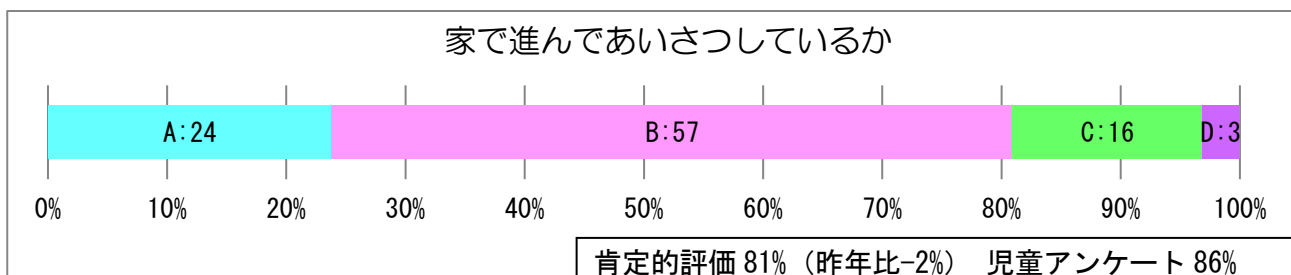
＜改善策＞

→○家庭学習について、強調句間を設定するなどして子どもの意識向上を図ります。また、家庭学習カードを工夫したり、授業内容を家庭学習につなげられるように丁寧に指導したりして、自分で考えて家庭学習ができる児童を増やしていきます。

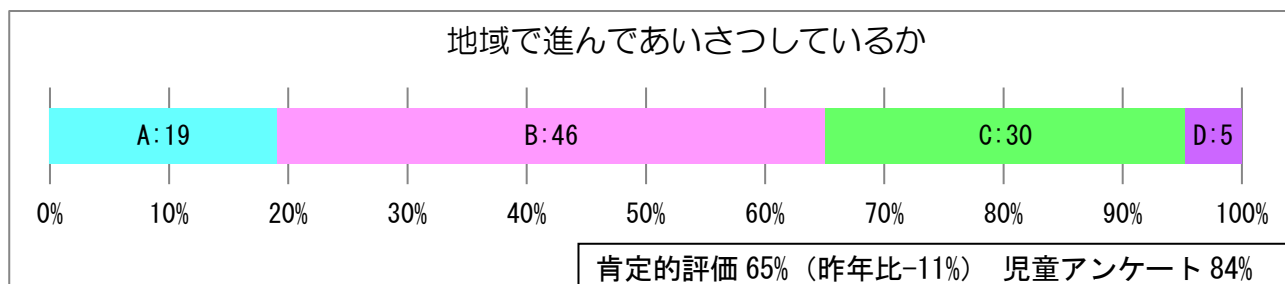
→○「糸魚川市授業改善チェックリスト」を活用し、子どもたちが意欲的に学習に取り組めるように、私たち教師も日々、授業の充実に努めていきます。

《生活面での課題》

質問 「お子さんは家族へ進んであいさつをしていますか。」



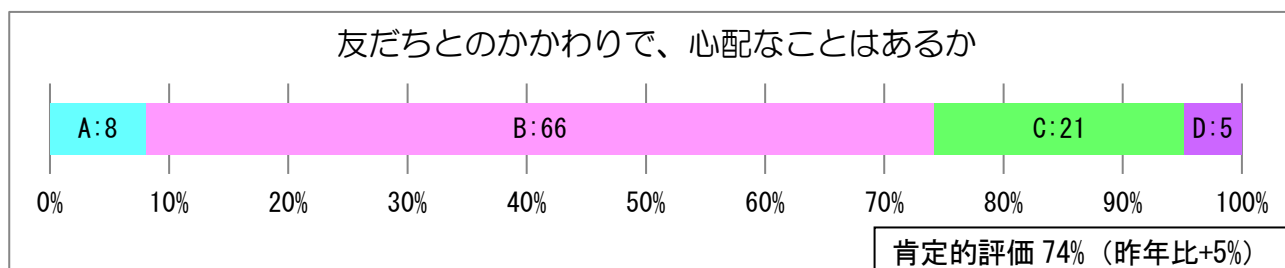
質問 「お子さんは、地域で（地域の方に）進んであいさつをしていますか。」



▼特に地域でのあいさつについては、保護者の皆様の見方と子どもたちの意識に差があるようです。「(児童は)自分であいさつしているつもりだが、大人から見ればまだまだ」という状況のようです。あいさつは社会性の第一歩です。コミュニケーションのスタート地点です。

学校では、あいさつ運動などを通して、明るいさわやかなあいさつをこれからも奨励するとともに、教師が率先して範を示すため、進んであいさつの声をかけていきます。家庭や地域でも互いにあいさつをかわし、大校と一体となって、大人が率先してあいさつをかわす「**モデル地域**」を目指しましょう。また、児童が作ったあいさつ標語で、地域の皆様からのぼり旗を作っていただきました。旗を立て、地域をあげての“あいさつ強調月間”のような取組を行うようなお話をお聞きしました。その時には学校でもあいさつへの取組を行っていきたいと考えています。

質問 「友達とのかかわりの中で、心配なことはありますか。」



▼友達とのかかわりでは、肯定的な回答が74%ということは、「心配なことがある」という回答が4分の1ほどあるということです。自由記述欄は「友達とのコミュニケーション（言葉遣い、接し方など）」、「自分のお子さんの性格から、他とうまく交流できない、あるいは、迷惑をかけるのではないか」などの不安に関する記載でした。

日常から家庭でお子さんと学校生活の様子を上手に聞いたり、気に掛けたりしている様子が伺えます。大変ありがたいことです。今後も声掛けや働きかけをお願いします。

学校では、下のような働きかけを今後も継続して、子どもたちの自尊感情の高揚や社会性の育成に取り組んでいきます。

<改善策>

- 道徳授業の充実を図り、思いやりの心や差別をしない心の育成に努め、適切な人間関係の形成を図ります。
- 各学級で「クラス会議」の手法を用い、子ども同士がかかわりをもちながら、課題を解決する学習活動を充実していきます。
- 各学級の帰りの会や授業の中で、子ども同士が認め合い、称賛し合う場をつくります。
- 子ども主体のいじめ見逃しゼロスクール運動を進めます。
- 教育相談週間を中心に子どもたちの悩みや心配ごとを聞き取っていきます。

質問 「お子さんは、メディアについて、「家庭で決めたルール」を意識して生活していますか。」

※この設問は「(1)児童アンケートから」に記載しましたので、そちらをご覧ください。